

令和5年度

岡山県立博物館協議会

第1回 開催要項

- 1 開会
- 2 展示室視察
- 3 議題
 - (1) 令和5年度事業について
 - ア 展覧会
 - イ 教育普及事業
 - ウ 入館状況
 - (2) 令和6年度展覧会計画（案）について
 - (3) 長期展覧会計画（案）について
 - (4) その他
- 4 閉会

日 時：令和5年10月5日（木） 13：30～

会 場：岡山県立博物館 講堂

(1) 令和5年度事業について

ア 展覧会

令和5年9月30日現在

		1階		2階		
	第1室 (考古・通史)	第2室 (通史・民俗)	第3室 (備前焼・刀剣・工芸)	第4室 (テーマ展ほか)	ホール	
4/1～5/7 春季展 37(32)日	旧石器時代～中世	中世～近世 旅と行楽	みなさまからご寄贈いただいた刀剣 備前焼	テーマ展 「名刀 福岡一文字の光彩」		
5/11～6/18 夏季展(1) 39(34)日	旧石器時代～中世	中世～近世 旅と行楽	みなさまからご寄贈いただいた刀剣 備前焼	テーマ展 「美作勝山城の実態に迫る」 県北の仏教美術		
6/22～7/23 夏季展(2) 32(28)日	旧石器時代～中世	中世～近世 【交通】絵馬に描かれた船	みなさまからご寄贈いただいた刀剣 備前焼	テーマ展 「涼をよぶ岡山の伝統工芸」 県北の仏教美術		
7/28～9/3 特別展・夏季展(3) 38(33)日	旧石器時代～中世	中世～近世 【交通】絵馬に描かれた船	特別展 「慈悲のほとけ 観音と古寺の名宝」			特別展 関連行事
9/9～10/15 秋季展(1) 37(31)日	旧石器時代～中世	中世～近世 薬・医学、郷原漆器	赤羽刀 備前焼	テーマ展 「正宗敦夫と正宗文庫」		テーマ展関連 パネル展示
10/20～12/3 特別展・秋季展(2) 45(39)日	旧石器時代～中世	中世～近世 薬・医学、郷原漆器	特別展 「醸す 自然と技術が育んだ岡山のお酒」			特別展 関連行事
12/8～1/14 冬季展(1) 38(30)日	旧石器時代～中世	中世～近世 熊野染夜着ほか	赤羽刀 備前焼	テーマ展 「八幡大塚古墳と児島屯倉」 岡山の仏像		
1/18～2/25 冬季展(2) 39(34)日	旧石器時代～中世	中世～近世 熊野染夜着ほか	赤羽刀 備前焼	テーマ展 「常住寺の寺宝」 岡山後楽園		
2/29～ 春季展(1) 32～(28～)日	旧石器時代～中世	中世～近世 雛人形(仮)	赤羽刀 備前焼	テーマ展 「岡山の戦国時代」 岡山の仏像		

〈展覧会内容〉

事業名	開館記念テーマ展「名刀 福岡一文字の光彩」	
期間	令和5年4月1日(土)～5月7日(日)	
趣旨	鎌倉時代初期に後鳥羽上皇の御番鍛冶として数多く選出された備前の刀工集団「一文字」派の呼称は、天下一を意味する「一」の銘を茎に刻むことに由来するともいわれ、名工則宗を祖とし、鎌倉時代中期には福岡一文字派として最盛期を迎え、豪華絢爛な丁子の刃文で一世を風靡した。本展では、岡山ゆかりの備前刀への関心を高め、理解を深めることを目的とし、福岡一文字派の作を中心に、その特徴やみどころを紹介する。	
主要展示資料	重要文化財 太刀 銘 則宗 重要美術品 太刀 銘 正恒 国宝 太刀 無銘 一文字(号 山鳥毛) 国宝 太刀 銘 吉房 重要文化財 太刀 銘 一 重要文化財 刀 無銘(伝 吉房) 重要美術品 太刀 銘 助吉 太刀 銘 長則	岡山県立博物館蔵 岡山県立博物館蔵 備前長船刀剣博物館蔵 林原美術館蔵 林原美術館蔵 林原美術館蔵 林原美術館蔵 吉備津彦神社蔵
備考	入館料 大人250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室 連携展示 「おかやまサムライ巡り」 同時期に開催する、林原美術館企画展「戦記×刀—駆け抜けた サムライたちの夢の跡—」、岡山城天守閣「戦国に生きる」と展示内容や関連行事(スタンプラリー)で連携	

事業名	テーマ展「美作勝山城の実態に迫る」	
期間	令和5年5月11日(木)～6月18日(日)	
趣旨	明和元(1764)年、三河国西尾藩主の三浦明次に美作国真島郡への転封が命じられた。三浦家は、戦国時代には美作国西部を代表する城郭であった高田城を勝山城と改めて、三の丸に御殿を設け、ここに、明治維新まで続く美作勝山藩が誕生した。本展では、この美作勝山城に着目し、高田城と呼ばれたころから、明治維新後に廃城となるまでの移り変わりを紹介することで、美作勝山城、美作勝山藩及び岡山県の歴史の奥深さを知っていただく。	
主要展示資料	大友義統書状 美作国真島郡勝山城地絵図 御領知目録	岡山県立博物館蔵 岡山県立記録資料館蔵 真庭市教育委員会蔵
関連行事等	①学芸員による展示解説 5/13(土)、5/27(土) ②真庭市立中央図書館でのオンライン展示解説会 5/28(日)	
備考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室	

事業名	テーマ展「涼をよぶ岡山の伝統工芸－花ござと撫川うちわ－」
期間	令和5年6月22日(木)～7月23日(日)
趣旨	岡山県南部はかつて藺草の栽培が盛んで、明治から昭和時代にかけて高品質の花ござが大量に製造され、特に明治期には日本の代表的な輸出品のひとつであった。撫川うちわは、江戸時代より撫川・庭瀬(岡山市北区)にて武士の内職で生産されたといわれ、俳句や花鳥風月を表した透かし絵が特徴である。岡山の伝統産業・伝統工芸品について知っていただくとともに、これらの涼やかなデザインをとおして岡山の夏を感じていただく。
主要展示資料	錦莞菴および磯崎眠亀関連資料 織込花菴、輸出用花菴 撫川うちわ
関連行事等	学芸員による展示解説 7/1(土)、7/15(土)
備考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室

事業名	特別展「慈悲のほとけ－観音と古寺の名宝－」
期間	令和5年7月28日(金)～9月3日(日)
趣旨	観音菩薩は、様々な姿に変じて人々を困難から救うとされ、親しみやすい慈悲のほとけとして、古くから人々に信仰されてきた。近世以降は観音霊場が各地に成立し、中国地方では中国観音霊場が創設されている。本展では、中国観音霊場に伝わる様々な観音像の魅力に迫るとともに、歴史ある諸寺院に伝わる書画・彫刻等の名宝を紹介する。
主要展示資料	重要文化財 聖観音菩薩立像 法界院蔵 重要文化財 観音菩薩立像 大山寺蔵 重要文化財 十一面観音菩薩立像 三佛寺蔵 岡山県指定重要文化財 金陵山古本縁起 西大寺蔵 重要文化財 観世音法楽和歌 浄土寺蔵 重要文化財 四天王図鎗金絵扉 龍蔵寺蔵 重要文化財 孤峰覚明(三光国師)像 古剣知訥賛 雲樹寺蔵
関連行事等	①記念講演会「中国観音霊場と西国観音霊場」 8/5(土) 講師 石川知彦氏(龍谷ミュージアム副館長) ②学芸員による展示解説 7/29(土)、8/12(土)、8/26(土) ③ワークショップ「香りを楽しむ－匂ひ袋作り－」 8/6(日) 講師 森脇亮介氏(京仏具 三香堂) ④展示品を見て学ぶ文化財講座(小学生～高校生を対象とした展示解説) 8/19(土) ⑤1,000秒であなただけの千手観音を描く屋台 in 岡山県立博物館 8/11(金・祝)、8/12(土)、8/13(日)、8/27(日)、9/1(金)、9/2(土)、9/3(日)
備考	入館料 大人450円、65歳以上220円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室

事業名	テーマ展「正宗敦夫と正宗文庫」
期間	令和5年9月9日(土)～10月15日(日)
趣旨	正宗敦夫(1881-1958)は、和気郡伊里村(現備前市穂浪)出身の国文学者・歌人として知られている。敦夫は生涯を通して、郷土岡山の歌人・学者の重要著作をはじめとする貴重な書籍や典籍などを蒐集し、昭和11(1936)年には自宅近くに財団法人正宗文庫を創設する。本展では一般財団法人正宗文庫、就実大学人文科学部、国文学研究資料館の協力を得て、正宗敦夫の業績を顕彰するとともに、全国初公開の資料も含め、敦夫の遺した正宗文庫がもつ資料の豊かさを広く県民に紹介し、郷土岡山への愛着や誇りの醸成を図る。
主要展示資料	井田村神社奉納三十六歌仙稿本(正宗直胤筆) 一般財団法人正宗文庫蔵 ト養狂歌集 一般財団法人正宗文庫蔵 俱舎論音義 一般財団法人正宗文庫蔵
関連行事等	ミニ講座+ショートギャラリートーク 9/10(日) 専門家と当館学芸員による展示解説 9/23(土・祝)、9/30(土)、10/14(土)
備考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室

事業名	特別展「醸すー自然と技術が育んだ岡山のお酒ー」
期間	令和5年10月20日(金)～12月3日(日)
趣旨	岡山県は、北は中国山地、南は四国山地に挟まれている。特に県南では晴天が多く、温暖な気候であるため、米や果物等が安定的に収穫できるといわれている。また、県内を南北に流れる旭川・高梁川・吉井川による豊富で清らかな水源もある。 こうした豊かな自然環境を背景に、岡山県では酒造米の栽培や伝統的な酒造りが盛んに行われてきた。全国的に見ても数多くの酒造場を有し、300年続く酒蔵をはじめ、県内各地においてそれぞれの蔵元が個性豊かな日本酒を醸してきた。 本展では、豊かな自然の恵みを活かし、熟練の技により醸され続けてきた岡山の酒造りについて、酒造の道具や映像などとともに紹介する。また、酒宴を彩った酒器や懐かしのラベルなど、暮らしの中に根ざした酒文化についても紹介し、酒と人の関わりを見つめる。
主要展示資料	『日本山海名産図会』 岡山大学附属図書館蔵 酒造りの道具 大月邸酒蔵民具館蔵・三宅酒造株式会社蔵 角樽・指樽 一般財団法人大国家蔵
関連行事等	①記念講演会「酒の日本文化」 10/21(土) 講師 神崎 宣武氏(民俗学者) ②記念講演会「杯の向こうに風土が見える～岡山の米・水・技で醸す地酒の魅力～」 11/19(日) 講師 市田真紀氏(岡山県酒造好適米協議会 広報アドバイザー) ③映像上演会とトークイベント「岡山の地酒の復興を目指した杜氏たちの貴重な映像とそれにつわるお話」 10/29(日) 講師 小松原 貢氏(岡山映像ライブラリーセンター) ④学芸員による展示解説 11/11(土)、11/25(土)、12/2(土)
備考	入館料 大人450円、65歳以上220円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室

事業名	テーマ展「八幡大塚古墳と児島屯倉」	
期間	令和5年12月8日(金)～令和6年1月14日(日)	
趣旨	<p>欽明天皇 17(556)年、中央集権化を進める大和朝廷は、児島に直轄地、屯倉を設置した。屯倉の推定位置に近接して築かれた八幡大塚古墳は、副葬品や墳丘の規模などから屯倉とのかわりが考えられてきた。この古墳は大形の円墳とされてきたが、この時期の吉備で屈指の規模、全長64mの前方後円墳であったことが明らかになった。本展では、八幡大塚古墳の副葬品や屯倉が主導したとみられる大規模な塩生産の遺跡を紹介する。また、この古墳が吉備の後期古墳のなかでどのような位置を占め、以降の古墳にどのような影響を与えたかについてもふれる。</p>	
主要展示資料	岡山市 八幡大塚2号墳副葬品	岡山県立博物館蔵
	玉野市 出崎長崎遺跡製塩土器層剥ぎ取り	岡山県立博物館蔵
関連行事等	学芸員による展示解説 12/16(土)、12/23(土)、1/13(土)	
備考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室	

事業名	テーマ展「常住寺の寺宝」	
期間	令和6年1月18日(木)～2月25日(日)	
趣旨	<p>岡山藩主池田家の祈祷寺であった常住寺には、藩主ゆかりの書画や仏像が伝わっている。祈祷の本尊である仏像は、池田継政ゆかりの不動明王をはじめ大小の厨子が多数残る。また、休館中の調査により第三代藩主池田継政や第四代藩主池田宗政自筆の絵画・経典類がまとまって現存することも判明した。</p> <p>本展では、常住寺に伝わる仏教関係の資料を中心に展示し、仏像や絵画等に込められた藩主の祈りの痕跡を紹介する。</p>	
主要展示資料	毘沙門天立像 平安時代 常住寺蔵	
	不動明王坐像(二重厨子入) 江戸時代 常住寺蔵	
	池田綱政像 池田継政筆 江戸時代 常住寺蔵	
	金剛寿命陀羅尼経 池田宗政筆 江戸時代 常住寺蔵	
関連行事等	学芸員による展示解説 1/20(土)、2/3(土)、2/17(土)	
備考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室	

事業名	テーマ展「岡山の戦国時代ー赤松氏から宇喜多氏までー」	
期間	令和6年2月29日(木)～4月7日(日)	
趣旨	<p>戦国時代の岡山では、備前の浦上氏や宇喜多氏、備中の三村氏ら、多くの戦国武将が覇権を争っていた。これまでは、『備前軍記』等の江戸時代の資料を元に語られることが多かったが、近年、文書資料等の発見や、古代吉備文化財センターによる中世城館等総合調査等の様々な成果がある。</p> <p>本展では、当館が所蔵または寄託を受けている赤松氏と浦上氏・宇喜多氏を中心に関係する資料を展示し、戦国時代を生き抜いていった武将たちについて紹介する。</p>	
主要展示資料	岡山県指定重要文化財 赤松満政寄進状 応永3(1425)年 和気町 安養寺蔵	
	岡山市指定重要文化財 宇喜多直家書状 年未詳 岡山市 西大寺蔵	
	中国兵乱記 江戸時代 個人蔵	
関連行事等	学芸員による展示解説 3/2(土)、3/16(土)、4/6(土)	
備考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室	

イ 教育普及事業

事業名	ジュニア学芸員講座
期間	令和5年8月8日(火)～8月10日(木)
概要等	<p>県内の中高生が、実物の文化財の取り扱いや調査など学芸員の基本的な仕事を体験することで、岡山の歴史と文化に関する理解を深めるとともに、将来を考える機会を提供する。</p> <p><内容> 3日間の講義・実務・研修を行い、修了時に館発行の認定証を授与する。</p> <p>1日目 開講式、施設見学、文化財の取扱い(考古資料・陶磁器)、写真の撮影体験</p> <p>2日目 文化財の取扱い体験(日本刀、民俗資料)、他館訪問(岡山城天守閣)</p> <p>3日目 文化財の取扱い体験(美術品、古文書)、閉講式</p>
参加者数	中学生 9名 高校生 10名 計 19名

事業名	館内授業・出前授業
期間	通年(令和5年4月～令和6年3月)
概要等	<p>県内の小中高校生等が、博物館で実物の文化財に触れたり展示を見学したりして学習する。また、学芸員が学校に出向いたり、古墳等の史跡見学に同行したりして授業を行う。</p> <p><授業テーマ例(学校からの要望に応じて対応)></p> <p>歴史 吉備の古墳の世界</p> <p>民俗 体験! 昔の暮らし</p> <p>美術 備前焼を知ろう</p>
実施校数	館内授業 15校(小5、中2、高2、大4、特1、その他1) 館外授業 2校 ※9月30日現在

事業名	博物館講座
期間	令和5年6月4日(日)、11日(日)、18日(日)、25日(日)
概要等	<p>第一線で活躍する研究者と当館学芸員による連続講座を実施。(生涯学習大学連携講座)</p> <p>4日間4講座(1講座90分)、定員120名、受講料1000円</p> <p>第1回 「仏教絵画の視座 -涅槃図の諸相-」 講師：安嶋 紀昭 (広島大学 大学院文学研究科教授)</p> <p>第2回 「軍記物の世界 -備前軍記と備中兵乱記-」 講師：内池英樹 (副館長)</p> <p>第3回 「江戸幕府の代官とその支配」 講師：平田良行 (学芸員)</p> <p>第4回 「150年前の感染症対策 -岡山に残された種痘の資料から-」 講師：木下浩 (学芸員)</p>
受講者数	56名

事業名	中学校職場体験
期間	令和5年11月
概要等	中学2年生を対象にした職場体験の受け入れ ＜内容＞ 学芸業務や受付・看視等の仕事を体験
実績	受入校 7校 参加生徒 現在調整中 ※ 9月30日現在

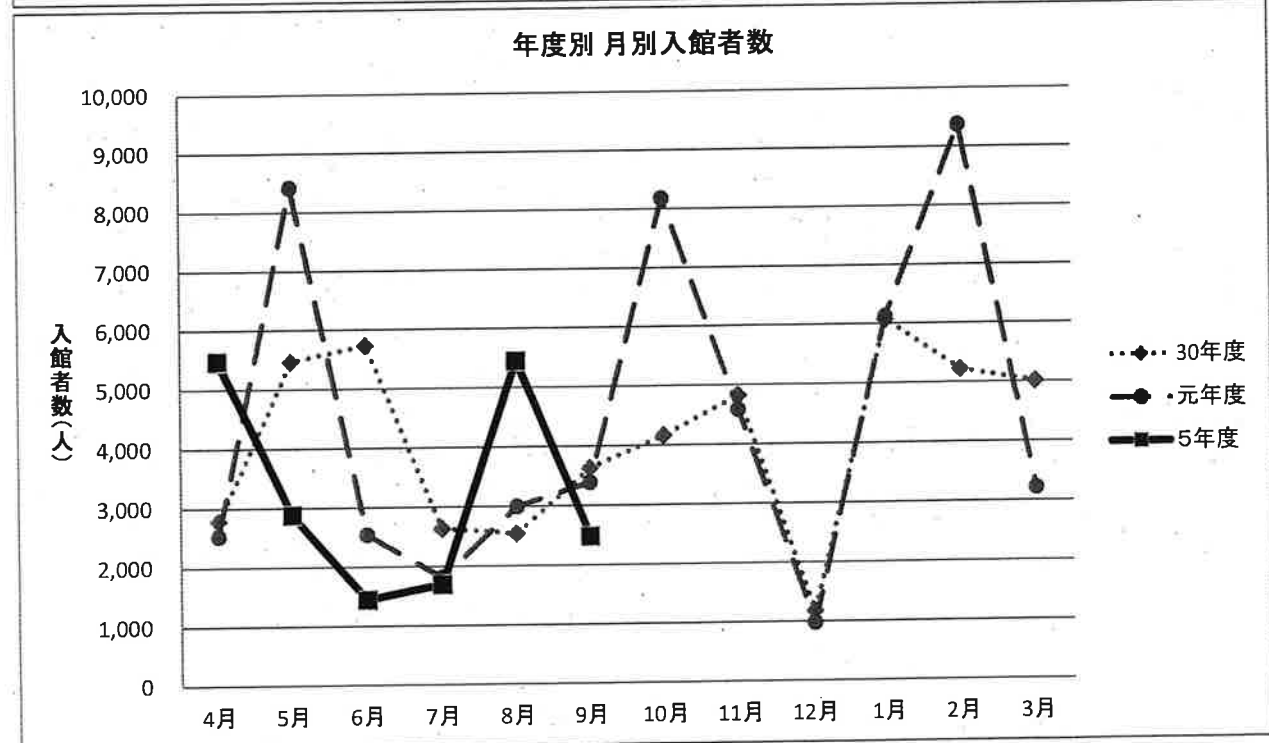
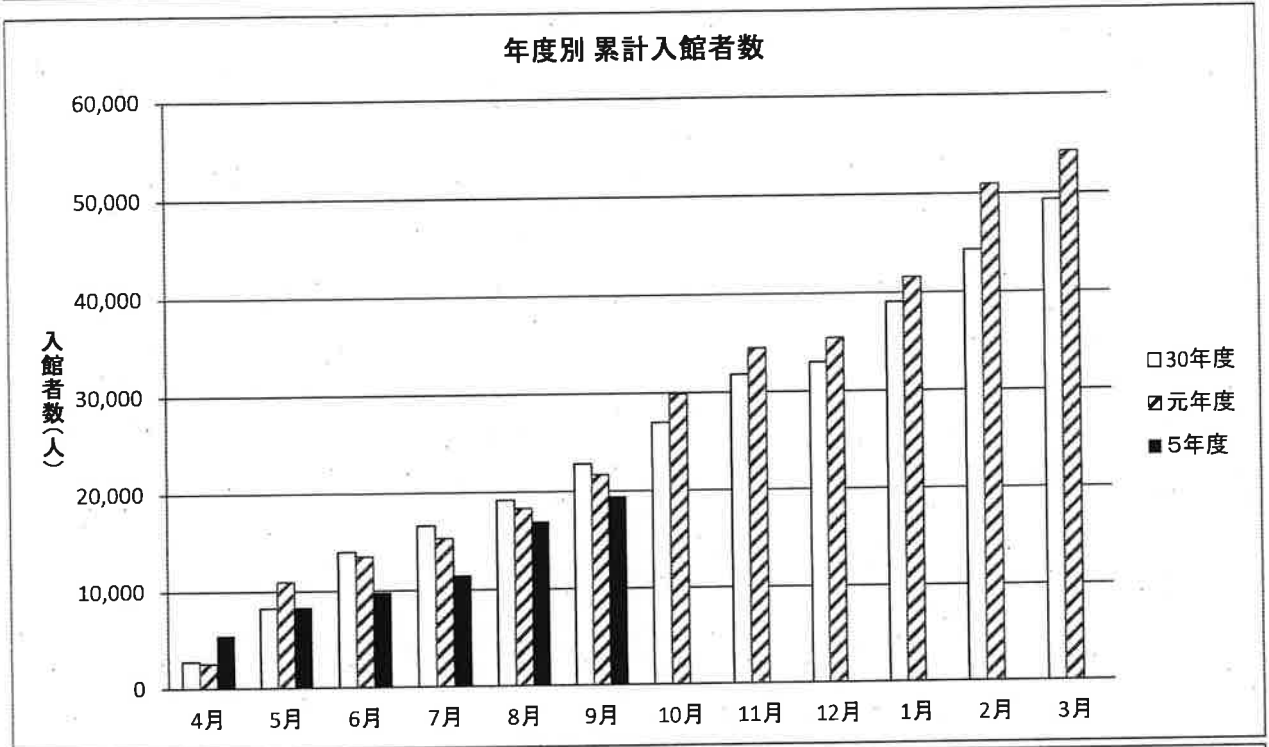
事業名	博物館実習
期間	令和5年8月1日(火)～5日(土)
概要等	博物館法に規定する学芸員資格の習得を希望する大学生を対象に、博物館において実習の機会を提供し、人材育成に資するとともに博物館活動の普及を図る。 ＜内容＞ ①講義実習(3日間) 各分野の文化財の取り扱いを通してその特性を学ぶ ②支援実習(2日間) 博物館の行事や展示替え作業を体験して実務を学ぶ
実績	参加者 10名

ウ 入館状況

月別入館者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	9月末現在
30年度	2,787	5,472	5,736	2,638	2,556	3,632	4,165	4,825	1,180	6,077	5,223	5,016	49,307	22,821
元年度	2,533	8,419	2,544	1,816	3,002	3,396	8,178	4,590	984	6,129	9,375	3,226	54,192	21,710
5年度	5,478	2,883	1,447	1,702	5,449	2,485							19,444	19,444



(2) 令和6年度展覧会計画(案)について

☆特別展・テーマ展

令和5年9月30日現在

	1階展示室 (考古・通史・民俗)	2階展示室 (テーマ展・刀剣・備前焼・工芸)
4/12～5/6 春季展 25(22)日	旧石器時代～近世 民俗	☆赤韋威鎧 刀剣 備前焼
5/10～6/16 夏季展(1) 38(33)日	旧石器時代～近世 民俗	☆民俗(仮) 備中高松城の戦い(仮) 刀剣 備前焼
6/20～7/16 夏季展(2) 32(28)日	旧石器時代～近世 民俗	☆古代吉備文化財センター40周年(仮) 刀剣 備前焼
7/18～9/1 夏季展(3) 39(34)日	旧石器時代～近世 民俗	☆地獄の絵解き 刀剣 備前焼
9/5～10/13 秋季展(1) 39(34)日	旧石器時代～近世 民俗	☆正宗文庫展2(仮) 刀剣 備前焼
10/18～11/24 特別展①・秋季展(2) 38(33)日	旧石器時代～近世 民俗	☆緒方洪庵と岡山(仮)
11/29～1/26 冬季展(1) 59(48)日	旧石器時代～近世 民俗	☆仏像 刀剣 備前焼
1/31～3/16 特別展②・冬季展(2) 45(39)日	旧石器時代～近世 民俗	☆茶碗―茶の湯にふれる―(仮)
3/21～ 春季展(1) 11～(9～)日	旧石器時代～近世 民俗	☆武器・武具(仮) 刀剣 備前焼

〈特別展内容〉

事業名	特別展「緒方洪庵と岡山」(仮)
期間	令和6年10月18日(金)～11月24日(日)
趣旨	文化7(1810)年、備中国足守(現岡山市北区足守)に生まれた緒方洪庵。文政8(1825)年、洪庵は、足守藩の大坂御留守居役に任命された父・佐伯惟因の2度にわたる大坂行きに同行する。こののち、足守に戻った洪庵は医学修行に赴くことを決意し、三度目の大坂への旅に出る。以後、大坂・江戸・長崎で修行し、天保9(1838)年に大坂に自宅を構えて医業を始めるとともに、適々齋塾(適塾)を開く。洪庵は西洋医学の研究と普及、予防医学の実践と普及に輝かしい業績を残した。さらに、明治日本をリードした福沢諭吉、大鳥圭介、長与専斎を始めとする多様な人材が適塾から輩出され、洪庵は教育者としても知られた。本展覧会では、緒方洪庵が記した書籍や自筆資料を中心に、洪庵の生涯・業績を紹介するとともに、洪庵のふるさと岡山に注目し、洪庵が岡山に残した「遺産」に迫る。
主要展示資料	適塾塾生等級別名簿 大阪大学適塾記念センター蔵 緒方洪庵和歌貼交屏風 大阪大学適塾記念センター蔵 種痘免状 個人蔵
関連行事等	(1) 記念講演会 (2) 学芸員による展示解説 (3) ワークショップ
備考	入館料 大人450円、65歳以上220円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室

事業名	特別展「茶碗 一茶の湯にふれる」(仮)
期間	令和7年1月31日(金)～3月16日(日)
趣旨	茶の湯では日本文化の魅力が大切に伝えられ、扱う道具には日本人の美意識があらわれているといわれる。なかでも茶碗はもともと身近に感じる道具といえ、好まれる茶碗は時代とともに変わり続ける。展覧会ではあこがれの対象となった唐物茶碗や高麗茶碗を紹介し、そうした舶来品の影響を受けながらも、国内の流行を取り入れて展開していく和物茶碗を展観する。岡山県は茶の湯と関わりが深い備前焼や虫明焼を作り続けてきたこともあり、やきものに関心を持つ人が多い地域であるが、茶道具の所蔵先は関東や関西の都市部に集中し、県内でまとめて見ることは難しく、次世代がやきものの優品と出会う機会も減少している。そのため、最新知見を取り入れた展示であると同時に、優品が一堂に会する貴重な機会であると訴え、次世代へやきもの魅力を伝える。
主要展示資料	重要文化財 油滴天目 12-13世紀 九州国立博物館 重要文化財 青磁輪花茶碗 銘 馬蝗絆 13世紀 東京国立博物館 重要文化財 黒樂茶碗 銘 ムキ栗 長次郎作 16世紀 国(文化庁保管)
関連行事等	(1) 記念講演会 (2) 茶碗についての座談会 (3) 呈茶 (4) 学芸員による展示解説
備考	入館料 一般450円、65歳以上220円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室

(3) 長期展覧会計画(案)について

年度		特別展	
5	2023	慈悲のほとけ —観音と古寺の名宝—	醸す —自然と技術が育んだ岡山のお酒—
6	2024	緒方洪庵と岡山(仮)	茶碗—茶の湯にふれる—(仮)
7	2025	岡山の藺草(仮) (変更の可能性あり)	戦国時代の岡山(仮) (変更の可能性あり)

岡山県立博物館協議会委員

任期2年（令和5年2月5日～令和7年2月4日）

令和5年10月5日現在

番号	氏名	区分	現職	就任年月	備考
1	藤原陽子	学校教育関係者	瀬戸内市立国府小学校長	R 4. 5	
2	忠政勇之	"	美作市立美作中学校長	R 4. 5	
3	辻田詔子	"	県立総社南高等学校長	R 5. 2	
4	栗原宏之	社会教育関係者	岡山県生涯学習センター所長	R 5. 4	新任
5	明楽香織	"	NPO法人らんたん職員	R 5. 2	
6	美咲美佐子	家庭教育関係者	NPO法人岡山市子どもセンター代表理事	H31. 2	
7	池田千鶴	学識経験者	(株)ビザビ コンテンツ開発局 編集チーム課長	R 3. 2	
8	岡野英美	"	NPO法人 ENNOVA OKAYAMA 正会員	H29. 2	
9	岡本隆明	"	(株)山方永寿堂代表取締役会長	H23. 2	
10	光本順	"	岡山大学学術研究院社会文化科学学域 准教授	H26. 7	
11	三田智子	"	就実大学人文科学部総合歴史学科 准教授	H31. 2	
12	伊勢崎晃一郎	"	日本工芸会中国支部陶芸部会委員	H31. 2	
13	内田章文	"	RSK山陽放送(株)取締役秘書室長	R 3. 2	
14	岡田智美	"	(株)山陽新聞社編集局文化部長	R 5. 2	
15	鳥井良輔	"	岡山県議会議員	H27. 6	

岡山県立博物館協議会条例

〔昭和46年6月25日〕
〔岡山県条例第47号〕

(設置)

第1条 岡山県立博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、岡山県立博物館に岡山県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(委員の任命の基準)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

(委員の定数)

第3条 委員の定数は、20人以内とする。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(その他)

第5条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、昭和46年7月1日から施行する。
- 2 (略)

岡山県立博物館協議会運営規則

〔昭和46年7月1日〕
〔岡山県教育委員会規則第13号〕

(趣旨)

第1条 この規則は、岡山県立博物館協議会条例（昭和46年岡山県条例第47号）第5条の規定に基づき、岡山県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(議長及び副議長)

第2条 協議会の会議（以下「会議」という。）に、議長及び副議長を置く。

2 議長及び副議長は、岡山県立博物館協議会の委員（以下「委員」という。）の互選により定める。

3 議長及び副議長の任期は、委員としての在任期間とする。

4 議長は、会議を主宰する。議長に事故のあるときは、副議長がその職務を代行する。

(招集)

第3条 会議は、岡山県立博物館長が招集する。

2 会議の招集は、会議開催の場所、日時及び会議に付すべき案件をあらかじめ各委員に通知して行なう。ただし、緊急の場合は、この限りでない。

(定足数及び表決)

第4条 会議は、委員の過半数以上が出席しなければ開くことができない。

2 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(職員の説明及び資料の提出)

第5条 委員は、会議において関係職員に対して、説明又は資料の提出を求めることができる。

(職員の出席)

第6条 関係職員は、会議に出席して意見を述べることができる。

(その他)

第7条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は協議会が別に定める。

附 則

(施行期日)

この規則は、公布の日から施行する。

職 員 一 覧

教育委員会事務局

職 名	氏 名	備 考
文化財課長	浜原浩司	

岡山県立博物館職員

職 名	氏 名	備 考
館 長	細 川 誠	
副 館 長	内 池 英 樹	(学芸課長事務取扱)
総 務 課	課 長	間 野 良 一
	副 参 事	平 井 利 尚
	主 任	上 岡 義 貴
	主 事	荊 木 淳
学 芸 課	学芸員(副参事)	重 根 弘 和
	学芸員(主任)	木 下 浩
	学 芸 員	岡 崎 有 紀
	学 芸 員	松 井 今 日 子
	学 芸 員	平 田 良 行
	主 事	宇 垣 匡 雅